

Book Review



歯が溶ける！ エロージョンの診断から予防まで

小林賢一 著



Reviewer

熊谷 崇

(山形県・日吉歯科診療所)



B5判, 90頁
定価 3,990円
(本体 3,800円+税 5%)
医歯薬出版刊

歯の喪失が加齢現象で生じるわけではないが、残念ながら多くの日本の高齢者の残存歯率は低い。残存率が低い理由は、予防的なケア（メンテナンス）のないままに修復補綴処置が繰り返されることも一因である。そして、そのような状況が一般的であるため、われわれは歯科医療に携わる専門家であるにもかかわらず、健康な口腔の経年変化（ナチュラルヒストリー）をほとんど知らない。

言い換えれば、齲蝕や歯周病のリスクコントロールのないままに、多くの歯が早期に修復補綴され、その結果、50～60歳代で多くの歯が喪失してしまうために、知りようがなかったともいえる。したがって、経年変化によるトゥースウェアについても関心のないままの人が多い。

しかし私は常々、今後、予防的なケアが普及し、高齢になっても健康な多くの歯が残るようになったときこそ、トゥースウェアの問題が大きくクローズアップされ、そしてその対策こそが

これからの補綴治療の主流になるだろうと感じていた。

本書は、そのようなトゥースウェアの一つである「酸蝕」（エロージョン）の診断から予防までをわかりやすく解説した本である。

「酸蝕」のこれまでのイメージは、酸を多量に使用する工場などで働く人の特殊な病変というイメージであったが、本書を読み進めるに従い、現代の生活環境や生活習慣のなかに「酸蝕」を誘発する問題が多く存在することを改めて認識することができる。

日常臨床においては、歯に生じている脱灰現象がどのような原因で生まれているのか見極める力が必要で、そのためには患者の口腔内に現れていることを手掛かりに、患者の生活背景、病歴、生活習慣、精神状態、社会現象などさまざまな可能性に思いを巡らしながら判断してゆかなければならない。そのようなとき、本書は大きな助けとなるにちがいない。

また、本書の症例やデータから、こ

れまで齲蝕予防の側面から考えていたリスクの評価に、「酸蝕」という観点からの評価も付け加える必要のあることが重要と再確認した。

たとえば、これまでオレンジジュースやイオン飲料をはじめとする清涼飲料は、それに含まれている糖濃度に関心の多くが払われてきたが、それだけではなく、それらの飲料がもともと持っている酸性度の高さも考慮しなければ、口腔内に現れる脱灰現象を正確に評価することは難しいと思われる。ちなみに数多く存在するさまざまな飲料はもとより、健康ブームで摂取の増加している黒酢などを原料とした食品や飲料、果ては飲料用の温泉水までもが酸蝕の要因となるなど、日常的な現代の社会生活に酸蝕の危険が多く存在することは臨床上興味深い。

そのような意味で、本書は歯科医療関係者のみならず、待合室での患者さん向けとして、また学校教育の場などで活用してもらうことも効果的ではないかと考える。